

講義名	オ)教養特講 (児童家庭福祉入門)			
担当教員	加藤 曜子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要				
<p>子どもを取り巻く環境は、貧困問題をはじめ、児童虐待問題などさまざまな問題が発生している。児童福祉法、子どもの権利条約をもとに、どのような支援体制が生まれ、また現実的な課題があるのかを、理解する。またそのうえで、支援及び、それに向けての戦略を検討したい。</p>				

到達目標				
<p>子どもを取り巻く社会問題や家族を支える仕組みについて、理解をする。</p> <p>さまざまな事象を通じ、制度や仕組みを学ぶとともに、あるべき子どもの成長発達、さらに自立に向けた必要要件を考える。</p> <p>また、社会資源や解決の方法論を学ぶことで、より子どもや家庭についての問題の理解を含め子どもや家庭の福祉の在り方について考えられる力を養う。</p>				

提出課題				
資料を授業時間で熟読したうえで、課題を提出してもらうという手順を踏みます。				

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>毎回授業中で提出している課題についてのフィードバックを行うつも、レポートについての感想や解説を随時行っていく。オンデマンドの場合添付資料をRIUKA Portalにアクセスしダウンロードしてください。 https://oj.unds.ac.jp/campusweb/レポート課題をRIUKA Portalにアクセスし確認してください。 https://oj.unds.ac.jp/campusweb</p>				

評価の基準				
<p>出席、授業態度を重視します。授業内での課題については、毎回の授業内での課題・意見提出は、内容、量が適切であるかなどから評価します。</p> <p>最終回でのレポートは必須です。成績評価の対象は、授業の欠席回数が総授業回数の3分の1以下の受講生のみである。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（出席が11回未満の場合）、「放棄」となる。</p>				

履修にあたっての注意・助言他				
<p>社会問題に関心があり、社会福祉士専修資格をとるための準備としても必要な科目です。後期に児童福祉論を履修する場合にはとっておいてください。児童福祉論は、社会福祉士専修資格の要件の一つとなります。</p>				

教科書				
.使用しません。				

プリント資料及び参考文献				
<p>ネグレクトされた子どもへのケア 安部・加藤・三上著 明石書店 児童家庭福祉論（中央法規）図書館 子どもの福祉とメンタルヘルス（小野善郎著） 社会福祉士受験のためには中央法などから、いくつか児童福祉論を参考されたい。</p>				

授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1.授業の進め方、今日的な子どものイメージや話題 2.児童家庭福祉の理念1 子どもと心身の発達支援とは 3.児童家庭福祉の理念2 親子の関係、家族について検討 4.児童家庭福祉のあゆみ1 子どもと位置づけ 5.児童家庭福祉のあゆみ2 世界の子どもとあゆみと日本との比較 6.子どもの権利について1 権利はどこで保障されているのか 7.子どもの権利について1 考えてみましょう 8.社会的養護と自立支援サービス 現場で働く人からのお話を聴く 9.現在の法体系としくみ 10.児童家庭福祉で働く人 映像からイメージをふくらまします 11.児童家庭福祉の費用 社会保険体系の中での位置づけを確認します 12.児童家庭福祉の実践1 生活で困っている子どもたちの実践について検討します 13.児童家庭福祉の実践2 14.児童家庭福祉の課題 15.児童家庭福祉のまとめ 				

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）			イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート			エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション			カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>予習 日頃から関心のある子ども家庭問題について、新聞記事やニュース、本などから学んでおく 2時間を学ぶ</p> <p>復習 授業後に、予習で取り上げた課題についても話題にして考えていく 2時間を用いる</p>				

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>・カリキュラムポリシー（教養特講） 教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群で、専門分野・領域にとらわれず時機に応じて開講します。 ・カリキュラムポリシー（教養一般） 教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群です。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
課題提出を授業のための資料に反映させる。				

実務経験の有無及び活用				
司法福祉においては少年事件、家庭事件を担当しており、児童家庭福祉に活用している。現在もなお、児童福祉の現場でスーパービジョンを実施している。				

備考				
児童福祉論が後期にあるが、その前の段階として取得しておくことが望まれます。				